



廿日市市教委だより

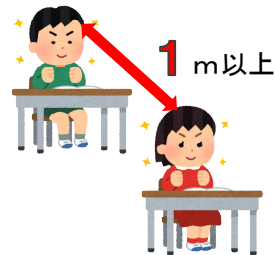
令和2年
6月15日
第3号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



長い臨時休業が終了し、6月1日より学校が段階的に再開され、学校には子どもたちの元気な姿が戻ってきました。各学校では、ほっとされていると同時に、臨時休業中の遅れを取り戻すためのいろいろな工夫をしてくださっていることと思います。

さて、市教育委員会では、今月号より学校の魅力あふれる取組や連載記事として「特別支援教育」、「ICTの活用」など、先生方の教育実践に役立つホットな情報を伝えていきます。



待ちに待った学校再開！

<小学校編>

～学校再開にあたって、新型コロナウイルス感染症対策が必要不可欠！～



Point1 感染源を絶つ



毎朝の検温確認

Point2 感染防止の3つの基本

① 身体的距離の確保



トイレ前の待機線

② マスクの着用



室内での
マスク着用の徹底

③ 手洗い



手洗いの様子

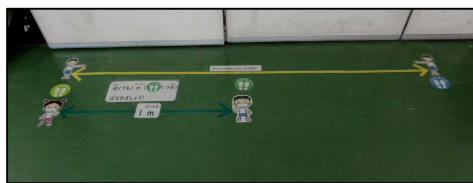


手洗いの仕方

Point3 「3密」の回避



座席の配置



Keep Distance
(適切な距離)

各学校で様々な新型コロナウイルス感染症対策が行われていました。何に気を付けるとよいかを**見える化**(可視化)することがキーワードであると感じました。ぜひ、他校の取組も参考にして、取組の徹底を図っていきましょう。

※写真 (平良小・地御前小・金剛寺小・宮園小・友和小・大野東小・大野西小)

<中学校編>

Point1 消毒の徹底



先生方による消毒

Point2 手作り可! 感染防止グッズ



ついたでの活用による感染リスクの抑制

Point3 対人距離の確保



特別教室の有効活用



Point4 配膳時間の工夫

空き時間の教員が、4校時に廊下で配膳。4校時終了前に配膳完了。

中学校でも各校の実情に応じた様々な感染防止対策が行われていました。**小さな工夫で大きな効果**を生み出すこれらのアイデアは、大いに参考になるものばかりです。

※写真 (廿日市中・大野東中・四季が丘中・大野中)

スポットライト!

~この人に注目~

◆今年度より市費のスクールソーシャルワーカーとしてご活躍中の阿部友紀さんにお話を伺いました。

Q.スクールソーシャルワーカー（以下SSW）の仕事
をしようと思ったきっかけを教えてください。

これまで、広島市の病院などで長く相談業務に携わってきました。私自身が廿日市市出身ということもあり、これまで身に付けた医療・福祉の経験を地元で生かし、貢献したいと考えていました。

教育現場で仕事をした経験はありませんので、私にとっても新たなチャレンジになります。職務を果たせるよう、日々勉強中です。



スクールソーシャルワーカー
阿部 友紀さん

Q.学校再開に向けて、これまでどのような準備を進めて来られましたか？

休校中に不安が生じた子供達や保護者の相談に応じたり、気になる子供達の様子を共有したりして、学校再開後の目標等を関係機関と調整してきました。家庭とは顔をつなぐこと、学校とは連携し情報共有を図ることを意識して準備を進めてきました。

Q.阿部さんにとって、SSWとはどんな仕事ですか？

一番は、子供達一人一人がその子らしく生きていくための手伝いをする仕事と考えています。また、学校と関係機関との橋渡し等、子供を取り巻く環境調整役であるとも考えています。とてもやりがいを感じています。精一杯頑張ります。

つながり支援プロジェクト実践事例集



年度末でしたが、各校へ「つながり支援プロジェクト実践事例集」を配付しました。皆さん、ご一読いただけでしょうか。

本市では、令和2年度も、学校教育の取組の1つとして、「子どもたちに寄り添い、心を育てる教育を進めます。」というキャッチフレーズのもと、

つながれ! 広がれ! 「宝の山」

「明日も行きたくなる学級・学校づくり」に取り組みますが、その中核的な取組として、「つながり支援プロジェクト」を位置付け、全校で特色のある取組を進めています。

「つながり支援プロジェクト」は、目新しいものではありませんが、普段から学校で当たり前に行っている教育活動を通して、児童生徒が「自己有用感」を感じるかどうかという観点で、意図を持って工夫すると、大きな成果を得ることができます。今回事例集で紹介させて頂いた取組は、学校の明確な意図のもと、様々な工夫がなされ、子どもたちが自己有用感を高めていました。今回新型コロナウイルス感染症防止のため、予定変更を余儀なくされることが多いと思いますが、これからも、児童生徒が「自己有用感」を感じるかどうかという観点を忘れずに、この実践事例集を参考に「つながり支援プロジェクト」を推進していきましょう。

特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

最近よく耳にする「授業のユニバーサルデザイン化」。通常の学級の授業において、LD等の子どもには「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利」な支援です。では、日々の授業づくりにおいて、どのようなことができるのでしょうか。

学校再開にあたって、各校で様々な新型コロナウイルス感染症対策が行われていました。その中で特に掲示物の工夫が多く見られました。これこそが、ユニバーサルデザイン化の視点の一つである「視覚化」です。言葉だけでは伝わりにくいことも絵や写真を示すだけで理解が深まることもあるかと思えます。このような授業以外でも行われているユニバーサルデザインを授業づくりのヒントにしてみてください。



ソーシャルディスタンス
を実感させる工夫



ハンカチの必要性を
伝える工夫

ICT 活用への道

まなびポケットと eboard を紹介します!

「まなびポケット」は、プラットフォーム上にある各社デジタル教材(コンテンツ)を、利用することができるサイトのことで、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供しています。今回、新型コロナウイルス感染症防止対策のための臨時休業に伴って、紹介した「学習サイト eboard」は、「まなびポケット」の中にある、無料で提供されているコンテンツです。

「eboard」とは、映像授業とデジタル問題集で基礎から学べるICT教材です。各自がID・パスワードでログインして学習すると点数などの履歴が残ります。先生方は、教員用のID・パスワードでログインすると、所属する児童生徒の学習ログが確認できるようになっています。

全国的な小中学校の臨時休業に伴って利用者が殺到し、個別のID・パスワードでのログインが停止していましたが、これまで利用履歴のあった学校から6月11日から15日(予定)にかけて、順次使えるようになる予定です。今年度、新たに登録する学校も、登録予定の児童生徒名簿の確認も徐々に終わっているため、登録が完了したら、お知らせします。

アフターコロナで、子どもたちの家庭学習の在り方が、大きく変わってくるかもしれません。そこで、家庭で子どもたちが使えるようになるために、まずは授業で活用してください。